

高知大学医学部医学科同窓会会報

やまもも

高知大学医学部医学科同窓会
会長 廣瀬 大祐
〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮
TEL:088(866)0034
FAX:088(866)0065
dosokaij@kochi-u.ac.jp
<http://www.kochi-ms.jp>

第 32 号

2021 年 同窓会総会のご案内

新型コロナウイルス疾患の診療に直接携わられている皆様は大変なご苦勞をされていることと存じます。

2021 年高知大学医学部医学科同窓会総会は、昨年度同様に広い会場で間隔をあげ開催するとともに、オンライン(ZOOM 予定)を併用して行います。

なお、感染防止対策のため講演会及び懇親会は中止とさせていただきます。

また、ホテルでの開催が困難な事態となった場合は、オンラインのみでの開催といたしますのでよろしくお願い申し上げます。

ご出欠のお返事は FAX またはメールにて、7 月 30 日(金)までにご連絡下さい。
Fax でのお返事は同封の用紙をご利用下さい。

FAX : 088-866-0065 メール : dosokaij@kochi-u.ac.jp

○開催日時 : 2021 年 8 月 7 日 (土)

総 会 : 午後 6 時～

残念ながら講演会及び懇親会は中止

○開催場所 : ホテル日航高知旭ロイヤル

高知市九反田 9-15 Tel088-885-5111

《会長挨拶》

高知大学医学部医学科同窓会会長

廣瀬 大祐 平成元年(第6期)卒

平素より同窓会の運営に関しましてご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年からの新型コロナウイルス感染症の拡大により、社会も経済も大きな変革を迫られています。皆様も日常診療での感染予防の徹底など多大なご苦勞をなされていると思います。

2021年8月7日(土)に開催の高知大学医学部同窓会総会はホテル日航高知旭ロイヤルで開催しますが、講演会・親睦会は中止します。総会の議題として会計報告、事業計画の承認を予定しております。

今春、同窓会は125人の新会員をお迎えし、会員総数は約3,700人が医療人として医療界で活躍しております。

今回の会報32号は、県外で活躍している先生や白衣授与式同窓会長メッセージ、医師国家試験報告などを掲載しております。なお、県外で活躍している先生の掲載につきましては、今後も継続して執筆をお願いすることとし、同窓会支援事業を認められました申請者には学会報告の執筆をお願いすることといたします。

大学と同窓生、同窓生同士をつなぐ組織として今後も活動を続けるため、ホームページで「やまもも」や「おこうだより」などの内容を見ることができます。

ぜひご覧になってご意見をお寄せください。

ホームページID kms パスワード yamamomo になります。

新型コロナウイルス感染症の早期の収束と皆様およびご家族が日々安全に過ごされますよう心よりお祈り申し上げますとともに、次年度(令和4年度)開催の同窓会総会は、盛大に執り行いたいと思いますので、是非ご参加の程よろしくお願い申し上げます。

会員の皆様からのご寄稿を心よりお待ちしております。

◎ゴルフコンペ中止のご案内

深緑の候、同窓会会員の皆様におかれましてはご清勝のことと存じます。

同窓会ゴルフコンペにつきまして当番幹事より連絡申し上げます。昨年は新型コロナの影響で中止とさせて頂きましたが、1年経ちました本年度も安心して開催することが不能と判断致しました。楽しみになさっていた先生方へは申し訳ございませんが、どうかご容赦下さい。

日々、各科においても大変な毎日かと存じますが、ご自愛をお祈り申し上げます。来年には是非、皆様とご一緒できることを心から願っています。尚、ご意見や連絡させて頂く送付住所に変更がございましたら hashidamynk@me.com までお願い致します。

幹事 橋田正継 平成4年(9期)卒



長崎から近況報告

長崎大学熱帯医学グローバルヘルス研究科

神谷 保彦 昭和60年(第2期)卒

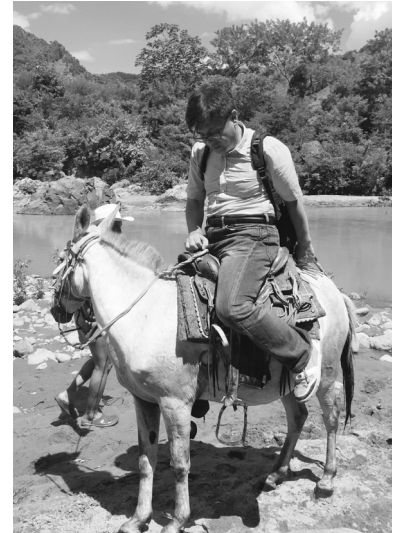
今回、ラグビー部の後輩でもある廣瀬大祐同窓会会長より本誌“やまもも”への寄稿の依頼を受けました。1993年(平成5年)の同誌第3号に“海外だより”として当時滞在していたガーナでの保健医療活動を書かせていただいて以来2度目となり恐縮しています。その第3号を読み返すと、当時学長に就任された喜多村勇先生が、YS-11の窓から俯瞰する四国の山と里を綴られた「四国の道」を寄稿されています。小児科教授、ラグビー部の顧問であられた喜多村先生から、学生時代に薫陶を受けたことに改めて感謝しながら筆を執っています。

1990年代前半のガーナの後、旧ユーゴスラビア、リバプール、マラウイ、旧ザイール、ケニア、ボストン、フィリピン、イラク、ジュネーブ、フィジーを15年間転々とし、紛争下難民医療、予防接種やアウトブレイク対応などの感染症対策に携わっていました。2008年から長崎大学国際健康開発研究科、熱帯医学グローバルヘルス研究科で、グローバルヘルスに係わる修士、博士課程の教育、研究に従事しています。最近、グローバルヘルスから視野を拡げ、ヒト以外の生命、地球の自然環境を守るプラネタリーヘルスを標榜しています。地球温暖化のせいで、病原体の多くが寄生する野生動物の生息域が広がるとともに、環境破壊によっていくつかの動植物が絶滅し、生物の多様性が損なわれることで人や家畜が病原体の標的になりやすくなっています。新型コロナウイルス感染症もその典型です。プラネタリーヘルスは、「地球」の健康に意識をもっと向けること、まだ生まれて来ていない将来の世代、例えば22世紀の人たちや動植物が、現在の私たちよりも健康的な暮らしをしているか、を考えることを促しています。現在の国内の保健問題、国と国との健康格差、世界全体の人々の健康を超えたプラネタリーヘルスは、視野を拡張し過ぎて焦点が定まらない欠点もあります。ただ、私たちの世界、現在の地球は、未来の世代からの借り物であるという言葉があるように、コロナ禍のような緊迫の問題でも、目の前の患者や地域社会での予防啓発と同時に、地球規模の長期的な視野を持つことも必要と感じています。これまでの世界で起こっている貧困や健康問題は、同じ地域、家庭で悪循環、連鎖していくため、現在、世界に存在する健康格差をなくす取組みは、世代間倫理の下での未来世代への責任に繋がると感じています。

国際保健協力で係わっているアフリカ諸国は、衛生状態や保健医療サービスが不十分にもかかわらず、新型コロナウイルス感染症の罹患、死亡者数は欧米をはじめとした他の地域に比べ少ないと報告されています。過少診断・報告の可能性もありますが、温暖な気候、若い人口構成、糖尿病や高血圧など生活習慣病の少なさ、幼少期からの感染症罹患の多さから強い自然免疫や交差免疫を持つことが、新型コロナウイルス感染症の流行拡大を抑えていると言われています。また南スーダンなどの紛争から逃れた難民キャンプは人口過密のため、大流行が危惧されましたが、今の所回避されています。難民たちはコロナ禍以前から移動制限や一般社会からの隔絶という不

自由なロックダウンを受けていたためです。ただ、病床や酸素の不足など、医療逼迫は感染者の比較的多いケニアなどでみられています。1990年代、アフリカ・マラウイ大学病院の小児科病棟で、入院患児の半数がHIV感染乳児で、その多くがニューモシスチス肺炎から低酸素血症に陥りましたが、酸素ボンベが1本しかなく、そこからのタコ足配管で10人近くの乳児に酸素投与をしていたことを思い出しました。

アフリカなど途上国では、新型コロナウイルス感染症の直接的なインパクトよりも、コロナ禍による副次的な健康危機が問題になっています。新型コロナウイルス感染症対応の保健医療サービスへの変更や受診控え、経済停滞による収入減のため、百日咳や麻疹などの小児予防接種率の低下や低栄養率の上昇が報告されています。現行の感染対策のマスク着用やソーシャルディスタンスによって、他の呼吸器感染症の流行も現在のところは抑えられています。しかし、新型コロナウイルス感染症がワクチン接種などによって収まり、マスク着用などが解除された時、ワクチンで予防可能な他の感染症がワクチン未接種による感受性者の増大により流行するリスクがあります。さらに低栄養の増加のため、新型コロナウイルス感染症以上に致命的になる懸念があります。新型



ホンジュラスでの
現地訪問途中の川渡り

新型コロナウイルス感染症の流行拡大が、他疾患罹患者の医療へのアクセスや十分な診療を妨げていることは問題ですが、一方で、不要な受診の減少、さらに一部の国では医療過誤の減少もみられているのは、コロナ禍の良い副次的効果と言えます。ただ、過剰受診は減っても、その代償か、過剰処方減っていません。アフリカの小児診療では、発熱があると臨床診断のみでマラリアと細菌感染症を疑って抗マラリア剤と抗菌剤を同時処方することが多いですが、近年は迅速診断キットが普及し、過剰処方が減る傾向にありました。しかし、コロナ禍で悪化時の再診や入院が以前に増して困難になり、外来で処方する薬の種類が再び増加傾向にあります。プラネタリーヘルスの一環として不要な医療介入をなくし、微生物を含む自然環境との共生、環境に優しい健康増進を中心に据えたいと思っていますが、そう簡単には行きません。

下の写真にあるような国際保健の現場活動は現在困難で、zoomを使って日本から遠隔で研修も



ホンジュラスでの地域保健員への小児肺炎診断講習

行っています。これまで年数回渡航していましたが、援助予算の多くが外部専門家の渡航費に使われていたことを考えれば、援助効率は却って良くなり、援助依存度も下がり、現地に根付いた医療保健の自立的改善がみられています。貧富や健康の格差がコロナ禍で拡大せず、縮小するよう支援を続けていきたいと考えています。

白衣授与式メッセージ

高知大学医学部同窓会会長

廣瀬 大祐 平成元年(第6期)卒

5年生の皆様、ご進級おめでとうございます。

例年は皆様にお会いして、お祝い・ご挨拶を申し上げますのですが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため書面でのお伝えになってしまいました。

5年生進級、臨床実習開始に合わせて、高知大学医学部同窓会から皆様に白衣を贈らせて頂いております。この白衣には高知大学医学部の同窓会のシンボルマークがつけられています。

このマークは高知医科大学の校章でした。

毎年、マークのことと、現在は高知大学医学部の教育の理念となっている、高知医科大学の建学の精神、「敬天愛人」「真理の探究」についてお話をさせていただいております。この二つの言葉は「自然の摂理を敬い、常に謙虚であり、何よりも個々の人間を大切にする大学人であることを目指しつつ、人間とその病態の中に真理を見いだす」という教えであり、呼び掛けです。

医学部のホームページには「地域社会が求める医療・福祉を担うためには、優れた知性や高い倫理観に加えて、豊かな感性や人間そのものに対する深い共感、自然を理解するための鋭い洞察力が必要です。また、多様な専門職の同僚たちと協力して円滑に医療を行うための協調性やリーダーシップ、生涯を通して医学・看護学を学び続ける強い向上心や探究心も求められます。

高知大学医学部は、これらの能力を備え、全人的な医療が実践できる医療人の育成を目標としています。」と書かれています。

私なりに、この二つの言葉から考え、皆様に伝えることは、今まで「医学」として学んできたものを「医療」として提供する、心構えとして必要なものが「敬天愛人」であります。病気を診るのではなくその人とその背景を診なければなりません。また「医療」を提供にするにあたり必要なものが「真理の探究」であると考えます。答えは一つではないかもしれませんが、その疾患概念が正しいものではないかもしれません。一生学び続ける姿勢を持ってください。

超高齢社会を迎えた現在、がんや外傷・感染症など「治す」医療のほか、治療が終わった後も残る症状などを「支える」医療、さらには終末期などの「見守る・寄り添う」医療があります。今までの授業やこれからの実習ではあくまでも「治す」医療が中心です。

どのような医療を提供する場合でも「敬天愛人」「真理の探究」を忘れずに取り組む第一歩がこの臨床実習になります。

白衣のマークを見るたびに「敬天愛人」「真理の探究」の二つの言葉を思い出して、実習期間を過ごしてください。



高知大学医学部同窓会会員の皆様

新型コロナウイルス対策「医学部学生生活支援事業」支援金のお礼について

平素より同窓会会員の皆様には格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年6月に新型コロナウイルス感染症により、ご家族の経済状態の悪化や本人のアルバイト収入の激減など生活に困窮する学生が見受けられ、自らの意思に反して就学を断念することがないように「高知大学医学部振興基金」の枠組みを活用した「医学部学生生活支援事業」を設け、医学部同窓会会員の皆様に支援金をお願いをしたところでございます。なお、これまでも大学や学部後援会より食料品などの生活支援をして参りましたが、まだ充分とは言えない状況でございます。

この度、同窓会の皆様からご支援を賜りました総額は、令和3年5月末日現在で2,548,000円に達しました。

ご支援をいただきましたご厚志は、学生アンケートや授業料免除申請基準などを参考に経済的に困窮している学生に対する支援金として活用してまいります。

新型コロナウイルス感染症は、ワクチン接種や治療薬の効果と変異株の対応などまだまだ収束が見えず予断を許さない状況です。高知大学医学部では、必要に応じ「学生生活支援事業」を継続して行いたいと考えております。

今後とも本学医学部に対するご理解とご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

末筆ながら、会員の皆様およびご家族の皆様の安全と健康をお祈りいたしまして、お礼のご挨拶に代えさせていただきます。

高知大学医学部長

菅沼 成文

第 115 回医師国家試験報告

医学教育創造・推進室

室長 藤田 博一 平成 8 年(第 13 期)卒

2021 年 2 月に実施された第 115 回医師国家試験は、高知大学からは 135 名(既卒生含む)が受験しました。コロナウイルス感染症の流行のため、勉強部屋の使用など、少し制限があるなかでの準備となりました。また、試験会場も例年とは異なる会場になるなど、受験生には少し負担が大きい中での受験となりました。全国の合格率は、新卒 94.4%、既卒 54.5%、全体 91.4%でした。高知大学は、新卒 118 名(94.4%)、既卒 4 名(40.0%)、全体 122 名(90.4%)が合格し、ほぼ全国平均の水準を保つことができました。同窓会よりさまざまな面でご支援いただき、大変感謝しております。また、最近、厚生労働省医師国家試験改善検討部会から今後の医師国家試験改革に向けて報告書が出されました。医師国家試験のブループリント改定、試験の CBT 化など大きな変更が生じる可能性が出てきました。詳細は、「医師国家試験改善検討部会報告書」で検索していただければ詳細を確認できますが、どのような試験になろうとも、十分に対応できるよう卒前教育を充実させていきたいと考えています。今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。



第 115 回医師国家試験出発風景(医学部図書館前ロータリー)

◆医師国家試験合格状況

回数及び 実施年	卒業生	受験者			合格者			合格率			総 順	合 位	国立大学 順
		新卒 名	既卒 名	計 名	新卒 名	既卒 名	計 名	新卒 %	既卒 %	計 %			
第77回(第 昭和59年)	第1期生 97名	97	—	97	97	—	97	100.0	—	100.0	1/76	1/39	
第79回 昭和60年	第2期生 85名	85	—	85	82	—	82	96.5	—	96.5	8/76	5/39	
第80回 昭和61年	第3期生 105名	105	3	108	99	2	101	94.3	66.7	93.5	18/79	14/42	
第81回 昭和62年	第4期生 89名	89	7	96	83	5	88	93.3	71.4	91.7	28/80	22/43	
第82回 昭和63年	第5期生 107名	106	8	114	103	5	108	97.2	62.5	94.7	6/80	4/43	
第83回 平成1年	第6期生 101名	101	7	108	94	7	101	93.1	100.0	93.5	15/80	9/43	
第84回 平成2年	第7期生 91名	91	7	98	87	7	94	95.6	100.0	95.9	4/80	2/43	
第85回 平成3年	第8期生 99名	99	4	103	86	2	88	86.9	50.0	85.4	49/80	35/43	
第86回 平成4年	第9期生 101名	101	15	116	94	10	104	93.1	66.7	89.7	19/80	12/43	
第87回 平成5年	第10期生 101名	100	11	111	92	9	101	92.0	81.8	91.0	44/80	29/43	
第88回 平成6年	第11期生 95名	94	11	105	92	6	98	97.9	54.5	93.3	11/80	8/43	
第89回 平成7年	第12期生 101名	101	8	109	97	4	101	96.0	50.0	92.7	17/80	9/43	
第90回 平成8年	第13期生 82名	82	9	91	80	7	87	97.6	77.8	95.6	17/80	8/43	
第91回 平成9年	第14期生 95名	94	4	98	88	0	88	93.6	0.0	89.8	39/80	22/43	
第92回 平成10年	第15期生 101名	101	10	111	91	5	96	90.1	50.0	86.5	66/80	39/43	
第93回 平成11年	第16期生 97名	97	16	113	85	10	95	87.6	62.5	84.1	52/80	36/43	
第94回 平成12年	第17期生 86名	86	18	104	79	7	86	91.9	38.9	82.7	34/80	23/43	
第95回 平成13年	第18期生 92名	92	18	110	84	13	97	91.3	72.2	88.2	63/80	42/43	
第96回 平成14年	第19期生 97名	97	13	110	93	9	102	95.9	69.2	92.7	33/80	21/43	
第97回 平成15年	第20期生 89名	89	7	96	81	4	85	91.0	57.1	88.5	54/80	31/43	
第98回 平成16年	第21期生 101名	101	11	112	96	6	102	95.0	54.5	91.1	32/80	21/43	
第99回 平成17年	第1期生 98名	98	10	108	92	5	97	93.9	50.0	89.8	45/80	26/43	
第100回 平成18年	第2期生 99名	99	10	109	90	7	97	90.9	70.0	89.0	53/80	30/43	
第101回 平成19年	第3期生 90名	90	12	102	83	5	88	92.2	41.7	86.3	55/80	35/43	
第102回 平成20年	第4期生 88名	88	13	101	81	5	86	92.0	38.5	85.1	71/80	41/43	
第103回 平成21年	第5期生 90名	90	13	103	82	8	90	91.1	61.5	87.4	67/80	40/43	
第104回 平成22年	第6期生 90名	90	14	104	82	8	90	91.1	57.1	86.5	65/80	42/43	
第105回 平成23年	第7期生 97名	96	13	109	89	7	96	92.7	53.8	88.1	55/80	32/43	
第106回 平成24年	第8期生 93名	92	15	107	87	9	96	94.6	60.0	89.7	51/80	25/43	
第107回 平成25年	第9期生 88名	88	12	100	70	6	76	79.5	50.0	76.0	79/80	43/43	
第108回 平成26年	第10期生 101名	99	22	121	89	16	105	89.9	72.7	86.8	73/80	42/43	
第109回 平成27年	第11期生 100名	100	19	119	94	8	102	94.0	42.1	85.7	76/80	42/43	
第110回 平成28年	第12期生 109名	109	15	124	102	7	109	93.6	46.7	87.9	71/80	40/43	
第111回 平成29年	第13期生 115名	114	15	129	107	10	117	93.9	66.7	90.7	36/80	23/43	
第112回 平成30年	第14期生 104名	104	13	117	99	7	106	95.2	53.8	90.6	49/80	25/43	
第113回 平成31年	第15期生 112名	112	10	122	105	6	111	93.8	60.0	91.0	40/80	19/43	
第114回 令和2年	第16期生 102名	101	11	112	96	6	102	95.0	54.5	91.1	63/80	33/43	
第115回 令和3年	第17期生 125名	125	10	135	118	4	122	94.4	40.0	90.4	57/80	32/43	
合計	3,713名	3,703	414	4,117	3,449	242	3,691	—	—	—	—	—	

〔第115回
医師
合格率〕 全 国：91.4%（前年：92.1%）
うち新卒：94.4%（前年：94.9%）

《事務局からのお知らせ》

会費納入のお願い

同窓会会費は終身会費で5万円です。未納の方は下記口座への納入をお願いします。

【郵便局からのお振込み】

口座番号:01680-2-130874 高知大学医学部医学科同窓会

【他銀行からのお振込み】

店名 : 一六九店 預金種目 : 当座

口座番号 : 0130874 高知大学医学部医学科同窓会

医師賠償保険団体加入のお知らせ

医学科同窓会で勤務医師賠償責任保険を団体扱いで損保ジャパンと契約しています。現在、約200名の加入者があり、保険料について団体割引15%（令和2年度）の適用を受けております。詳細につきましては、下記取扱代理店までご連絡ください。

【取扱代理店】 はらだ保険企画 〒780-0063 高知市昭和町10番5号
TEL : 088-823-7152 携帯 : 090-1007-8339
E-mail : harada hokenkikaku@yahoo.co.jp

同窓会事務局連絡先

高知大学医学部医学科同窓会

事務担当 明神 一夫

TEL : 088-866-0034

FAX : 088-866-0065

メール : dosokaij@kochi-u.ac.jp

送付先：高知大学医学部医学科同窓会事務局 行

FAX：088-866-0065

メール：dosokaij@kochi-u.ac.jp

【総会 出欠表】

総 会： ご出席（会 場、オンライン） ご欠席

御氏名 _____ 会員番号 _____ S・H _____ 年卒業

メールアドレス： _____

【勤務先や自宅などが変更となった場合は、本用紙でご連絡をお願いいたします。】

ご氏名	_____
	_____ 会員番号 _____ S・H _____ 年卒業
勤務先名	_____
勤務先住所	〒 _____ TEL _____
自宅住所	〒 _____ TEL _____
その他連絡先 (実家など)	〒 _____ TEL _____
メールアドレス	_____
【ご意見等】	